

第1回城端線・氷見線再構築検討会 議事録

日 時：令和5年7月30日（日） 10：30～11：30

場 所：県庁4階大会議室

出席者：出席者名簿のとおり

1 開会

（事務局）

定刻となりましたので、ただいまから、「第1回城端線・氷見線再構築検討会」を開催いたします。開会に先立ちまして新田知事からご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

（新田知事）

開会にあたりましてご挨拶申し上げます。第1回城端線・氷見線再構築検討会のご案内をしたところ、休日になってしまいましたが、皆様ご出席いただきまして、ありがとうございます。顔がそろうのが今日しかないということで、我々当事者はスピード感を持ってやっていく必要があると考えております。ご理解いただきたいと思えます。

また、北陸信越運輸局の笠原由之鉄道部長におかれましては、このたびの会議の設置に当たりまして、オブザーバーをお願いしましたところ、ご快諾いただきましてありがとうございます。

3年余りに渡るコロナ禍のトンネルをようやく今抜けつつあるところでありまして、今後公共交通の利用者は増加するものと期待できますが、長期的に言いますと、少子高齢化、人口減少が進行しているわけで、将来にわたり、利便性を上げながら、公共交通を維持していくことが大切と考えております。

国においては、昨年2月から鉄道事業者と地域が相互に協力、協働しながら、利便性、持続性の高い地域モビリティを再構築するための方策について検討が進められて参りました。その結果を踏まえて今年4月にローカル鉄道の再構築に関する仕組みの創設、拡充に向けた法改正が行われ、現在は10月からの施行に向け、新たな支援制度が検討されていると理解をしております。

今日の議題の城端線・氷見線については、3月のLRT化検討会で検討結果を公表し、国の新たな支援制度の活用も視野に入れ、検討することとしたところです。県としましてはスピード感を持って対応すべく、国の支援を受けるために必要となります再構築事業実施計画策定に向けまして、皆様と協議する場としてこのたびの城端線・氷見線再構築検討会を設置いたしました。

本日は笠原部長からも鉄道事業再構築事業についてご説明いただけると聞いております。

計画策定に向けて、皆さんと意見交換をしていきたいと考えていますので、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

それではよろしくようお願いいたします。

3 議事

(1) 城端線・氷見線再構築検討会の設置について

(事務局)

本日の出席者のご紹介は、お手元の出席者名簿の配布をもって代えさせていただきます。

それでは、議事に入ります。本日は第1回目の検討会ですので、まず城端線・氷見線再構築検討会の設置について、事務局からご説明いたします。

<資料1「城端線・氷見線再構築検討会設置要綱案」の説明>

ご意見、ご質問があればお願いします。

(意見なし)

設置要綱案について、ご了承いただきましたので、この後の議事は、要綱に基づきまして、会長の新田知事をお願いします。

(2) 地域交通法の一部改正等について

(新田会長)

ありがとうございます。それでは、議事を進めていきたいと思えます。

まず、地域交通法の一部改正等について、国土交通省北陸信越運輸局笠原由之鉄道部長から、説明をお願いします。

(笠原オブザーバー)

<資料2「地域交通法の一部改正等について」の説明>

(3) 鉄道事業再構築実施計画について

(新田会長)

引き続き、本検討会で検討を行う鉄道事業再構築実施計画について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<資料3「鉄道事業再構築実施計画について」の説明>

(新田会長)

城端線・氷見線につきましては、3月までLRT化検討会という名称で議論を行って参りました。この検討会では今後実施計画にどのような内容を定めていくかを検討していくこととなります。今ほどの説明に関するご質問も含めて、各委員からご発言をいただければと思います。

(角田委員)

実施計画を作っていく上で、我々としては、これまでやってきた城端線・氷見線LRT化検討会で検討してきた内容がありますので、是非ともこれを実施計画に反映していただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(夏野委員)

角田市長もおっしゃるとおり、ぜひその形でお願いしたい。ただし若干ブレイクダウンする必要があると思います。例えば新型車両はどれが入るのかとか、どんなイメージで行くのか。それからもう一つ、特にJRさんをお願いしたいのは、活性化、再構築のための安全対策は早々にやるべきでそれについても最初に議論が必要ではないかと思えます。

(田中委員)

両市長のおっしゃるとおりで私もそのように思います。現在沿線住民の関心も非常に高まっているので、スピード感を持って取り組むことが重要だと考えています。そういう中でしっかりと議論させていただきたいと、要望させていただきます。

(林委員)

3市長と同じでございまして、3年間いろいろと議論をして方向性が出ているわけでございますので、検討結果にありますとおり、運行本数の増加、交通系ICカードの導入、両線の直通化などの利便性・快適性の向上と、目指すところが出ていますし、今回の方でも非常に有利な支援があるので、スピード感を持ってやっていきたいと思えます。こういった事業が普及していきますと、例えば道路や河川など、地方の要望の4割から5割しか要望額がついていないので、それこそ全国第1号を目指すスピード感を持ってやっていきたいなと思えます。

(漆原委員)

本日は、再構築検討会という形で新たな議論の場を設けていただきまして、また、大変お忙しい中、新田知事をはじめ、沿線4市の市長様、そして北陸信越運輸局の鉄道部長様に、ご参集いただいておりますことより御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

利便性向上につきましては、各地域で進めておられるまちづくりの中で、城端線・

氷見線をどのような形で位置づけるのか、あるいは全体の交通ネットワークの中でどう位置づけるのかということ、整理していく必要があると思っております、その交通ネットワークの前提となる機能、必要な機能というのは何なのかということ、整理していく必要があると考えております。

これまで LRT 化検討会の中でもご議論がありましたし今ほど各市長様からもご意見が出た新車、それから IC 化、フリークエンシーの向上、そして直通化といった施策は、これまで議論させていただいたことからしても、地域のまちづくりと合致をするというふうな受けとめておりますので、皆さんおっしゃっていることに大きな方向性として異論はございません。

今後、この利便性向上策を具体化する上で、例えばダイヤで申し上げますと、どのようなダイヤにするかによって、必要な車両の数や、行き違いの設備といったものが異なって参ります。それから、城端線・氷見線は単線という制約がございますので、例えば接続で申し上げますと、氷見線と城端線の接続もあれば、新幹線との接続もございます。あいの風とやま鉄道との接続もございますので、このすべての接続を満たすのは、単線という制約の中ではなかなか難しいと考えております。

今回限られた時間の中で、スピード感を持って検討していくためにも、運行本数や接続、それぞれどのような優先順位にするのかといった、前提条件の整理が必要だというふうに考えております。

いずれにいたしましても地域の皆様のニーズに合った利便性向上策の実現に向けて、私どもも精一杯努力をして参りますし、皆さんと議論を深めていければと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(新田会長)

ありがとうございます。それでは皆さんのご意見をまとめますと、3月の LRT 化検討会の取りまとめ結果を実施計画に盛り込んでいくということで、先ほど笠原さんから、様々なメニューもあることをご紹介いただきました。今後、具体的な内容につきましては議論をし、またその上で、スピード感を持ってやっていくことが大切ということ。その上で、他の関係者の方がいろいろおられます。こちらはじっくりとやっていきたいと思いますが、その分、我々のこの会合は、当事者としてスピード感を持ってやっていくことは皆さんの共通認識だと思います。

他の関係者との折衝は、相手のある話ですので、着実に進めていければと思います。

このようにここまでの意見を取りまとめさせていただきたいと思います。

(角田委員)

実施計画を定めていくときに、事業構造の変更内容をどうしていくか、大事なポイントだと思っているわけですが、皆さんどう思われるでしょうか。

(夏野委員)

例えば直通化について、先ほど JR さんからの話もありましたが、優先順位をつけな

がらソフトの面からダイヤを工夫してやるのが大事ですが、そのあとの現実的なハードの面を考えたときに、議論のスピードアップを含めて、あいの風さんにも議論に入っていただくのがいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

(田中委員)

私も賛同します。あいの風さんですが、今後どの時点で新しい事業体に移すのかという議論があると思います。JRさんには今やらなくてはいけない安全対策を進めていただく中で、どの時点で新しい事業体に移行していくのかということを確認しながら進めていかなければいけないと思います。

(林委員)

事業形態は、JRさんがどういうご意向なのかが大事だと思います。

(新田会長)

現在運行いただいているJRさんのご意見を伺いたいと思います。

(笠原オブザーバー)

その前によろしいですか。今事業構造の変更という言葉が出てきましたが、いままで鉄道資産の50%以上の自治体への移管ということが一つの要件となっていました。今後はあくまで、事業者と自治体が連携して、最低10年の間、利用者の利便を確保しながら鉄道を維持していくという共通の方針のもとで明確な役割分担がされているかという観点を見ると本省から聞いておりますので付け加えさせていただきます。

(漆原委員)

今日もご提言のあった利便性の向上策というのは非常に重要であり、それが地域の未来につながっていくと認識しております。一方でそれらをすべて私ども事業者だけで実現していくというのは、体力的にも難しいと思っております。城端線・氷見線の持続可能性を高めて、それらを地域の未来につなげていくためには、富山県様、4市の皆様、そして弊社で、役割分担と責任分担を考慮しながら、私ども事業者だけではなく、地域全体で支えていく枠組みについて、どのようなものが最適であるのかということを目指していく必要があるというふうに考えておりますので、先ほどからご意見が出ております事業構造に関する検討も非常に大切な要素ではないかと考えております。

また、先ほど笠原部長様からご説明いただいた資料にも記載してありますが、再構築実施計画に定める事項として、旅客鉄道事業の事業構造の変更の内容について記載することが求められておりますので、そうしたことから、この検討会で具体的に議論していければと考えております。

あいの風様につきましては、今回直通化というキーワードが出ておりますので、当然これは私どもだけで実現できることではありませんので、あいの風様にも入ってい

ただいで議論することは大事だと思っております。

安全対策については、そもそも私ども鉄道事業者がしっかりと取り組んでいけないといけない課題だと認識しておりますので、この議論とは別に日々安全に運行できるように努力をしていきたいと思っております。

(新田会長)

安全運行の件は、JRさんとしては事業者として言わずもななかもしれませんが、私からも先般、長谷川社長にお会いしたときに、しっかりと申し入れをしたところでございます。

(林委員)

よろしいですか。直通化ということになると、新型鉄道車両であれば構内をどう渡っていくかという話にもなりますので、JRさんもおっしゃられたとおり、あいの風さんにもこの検討会に入っていただくのがいいのではないのでしょうか。

(夏野委員)

安全対策で、夏になると枕木が燃えることがあり、皆さん不安に思っていますので、今は3本に1本PC枕木とか、場所によっては全部PC枕木のところもあると思いますが、そういうのを例えば移行の前に安全対策としてきれいにしていただければありがたい。JRさんとしては本当はもっと時間をかけてされるところかもしれませんが。

(角田委員)

漆原支社長から安全対策を別建てで考えると言っていたのはありがたいと思います。安全対策というのは我々自治体にとって、市民の命を守る上で何よりも大事だと思いますし、経営移管云々の前にしっかりと進めていただけるということが確約されることによって、この議論自体も大きく進むと思います。今日お願いして今日結論というのは難しいと思いますが、我々としてはそういう思いがあるということをJRの皆さんにはご理解いただければと思います。

(新田会長)

支社長様、現時点でコメントできることがありましたら。

(漆原委員)

安全対策というのはきりがないところがございます。先ほど夏野市長がおっしゃられた3本に1本というのは、我々1/3PCと呼んでおります。3本に1本しっかりとした枕木を打てば十分安全運行ができるということで全社的に進めている施策です。一方で城端線・氷見線はディーゼル車ということで何とか対応はしていますが、ぼやが発生して、ご心配をおかけしていることは事実だと思っております。それをコンクリート枕木で解決するのか、別の手立てで解決するのかは事業者がしっかりと検討してい

かなければいけないと思います。いずれにしてもしっかりと安全な状態の鉄道を作り上げることについては、私どもがやるべきことだと思いますので、今日の皆さんのご意見を受け止めたくて施策を考えていきたいと思っています。

(新田会長)

それでは2つ目の論点についてまとめさせていただきますと、当分の間 JR 西日本さんの運営を継続していただく必要があると考えますが、富山市では、ライトレールの成功事例もあります。これを見ても事業主体というのは、大切な視点だというふうに考えております。今後、事業主体についても検討会でしっかり議論をしていく必要があるかと思っています。具体的にあいの風さんの名前も出ました。もちろん4市、富山県もあいの風鉄道のステークホルダーには間違いありません。ただ、株式会社であるので他にもステークホルダーがいらっしゃいます。他の市町村も関わっておられますし、株主もおられます。そういった我々以外のステークホルダーの意見もしっかりと聞いていかなければならないと思います。この場で4市の市長さんから具体的な名前も出たことはしっかりと踏まえまして、今後やり取りをしていきたいと思っています。

(夏野委員)

県としての思いはどうですか。4市の思いはあいの風さんですが。

(新田会長)

県もステークホルダーの一つであり、ここで私、県の方向性を出してしまうのは時期尚早でないかと思っております。皆さんの思いは認識しております。

(4) 今後のスケジュール

それでは、今後のスケジュールにつきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<資料4「検討スケジュール」の説明>

(角田委員)

今説明のあった検討スケジュールは今日検討会を設置して、意見交換をして、第2回が9月になる。8月が抜けてしまうのはもったいないと思うのが率直な感想です。全国で一番の事例を目指すのであればこのスケジュールを細かくしてピッチを上げていくことが重要だと思いますがいかがでしょうか。

(夏野委員)

年内を目指すくらいでやらないと。

(角田委員)

先ほどの話のとおり、あいの風さんに参画してもらうことで、他の関係者との調整に時間がかかってくるのであれば、関係者だけの会議は早いピッチで進めていくことが必要かと思います。

(夏野委員)

鉄道局では実施計画の審査にだいぶ時間がかかるのですか。

(笠原オブザーバー)

今の段階では、実施計画の申請が出されてから少なくとも1カ月か2カ月は時間を要すると聞いております。このスケジュールで2月頃に実施計画案となれば、年度内の認定は難しいのではないかと考えます。年内に申請をすれば年度内に審査結果が出る可能性はあります。ただし社総交の活用まで行くかということ、今年度の予算を使えるかは別の話になってきます。

(角田委員)

まちづくりに直結してくる案件ですし、我々としては新年度予算のこともあるので、年内の取りまとめを目指してやるべきだと思います。市民や県民の意見も聞いていく必要もあるので、それぞれの意見が反映できるよう、まずは計画の素案までは早く行った方がいいのではないかと。

(林委員)

このスケジュールで行くと来年度当初予算では無理だということになるわけですが、特別な事業なので補正予算で途中にでももらえるくらいに考えていかないと、計画を作って審査をしてもらっても、次年度から要望となれば1年間が無駄になってしまいますので、国の補助制度を使えるスピード感でやっていきたいです。

(夏野委員)

交付金の性格として、2分の1といっても満額出ないこともある。計画の認定をもらっても、単独でやらなければいけないとなっては難しいし、各市新年度予算にどのようにあげていくかも問題。負担金としてあげておくのかとは思いますが、財源全部となっては困る。

(角田委員)

交付金のことも踏まえると、年内には計画をまとめて、新年度に向けてこのメンバーで国へ要望に行くなら行くというのが、一番スピードが早いのかと。

(夏野委員)

笠原部長にお願いしたいのは、制度と予算をセットで、並行して審査をするような

形で、新年度には制度を活用できるようにしていただきたいと思います。お願いします。

(田中委員)

年度内で認められても、丸一年何もできないということになれば本当にもったいない。年内には計画をまとめないと、どこにも何も言えなくなると思います。

(角田委員)

我々は当然補助を取りに行くという前提で動き始めているということを国交省の方にもご理解いただいて、結果的に審査でどうなるかはわかりませんが、計画の審議とともに、予算の方も動いてもらえると一番いいのかなと思います。

(新田会長)

JR さんはどうですか。スケジュール感について。

(漆原委員)

せっかく関係者が地域の未来にとっていい形で合意ができているという状態になっているので1年間、何もできないというのは非常にもったいないと思いますし、スピーディーにやっていくことが持続可能性を高めることにもなり、地域にとってもいいことになっていくと思います。

(新田会長)

スピード感を持ってやるということは私も常日ごろからすべてにおいて言っていることですし、この件についても皆さんと同感です。本県、沿線4市、JRさん、同じ方向を向いてしっかりスクラムを組んでいかなければと思います。

国交省、北陸信越運輸局さんとも綿密にコミュニケーションを取らせていただきながら、検討会を着々と進めていき、明日から関係者との折衝を始めていきたいと考えております。

(笠原オブザーバー)

全国的な話では、10月1日の施行と同時に認定申請を出すというところもあると本省から聞いています。少なくとも、スピード感を持って早くというのは承知しておりますのでそのようにできればと思います。

(新田会長)

それではここまで活発にご議論いただきましてありがとうございます。

今日の確認ですが、まず一つ目としては、3月に公表したLRT化検討会の検討結果として示した利便性・快適性の向上策について鉄道事業再構築実施計画に盛り込んでいくということ。

また二つ目として、城端線・氷見線の事業主体については今後、本検討会で議論をしていくということ。

三つ目に、今後の検討に当たり先ほどスケジュールを示しましたが、県、沿線市、JRさん、スクラムを組んで協力して、スピード感を持って進めていくということにしたいと思います。先ほど笠原部長からも、今のスケジュール感では年度内の認定は難しいかもしれないという所見をいただきました。スケジュール感についても検討していきたいと思います。

以上3点です。認識を共有できたということによろしいでしょうか。

(一同 異議なしの声)

(林委員)

直接城端線・氷見線とは関係がありませんが、少子高齢化、人口減少で行政としては公共交通を守っていかなければならないという、今日もそういった趣旨でありました。そんな中で、県の新たな武道館について、富山駅周辺か、五福公園か、総合運動公園かというところで、県として総合運動公園でという風に決まったわけですが、私が高校生で試合があるとすればやはり「車で送ってね」、という風にますます公共交通から離れていってしまうと思います。県としていろんな施設を立地する場合は、なるべく公共交通で行ける場所を原則考えていただくことによって、公共交通を生かせるということもあろうかと思しますので、県全体として公共交通を守っていこうという姿勢をぜひ見せていただきたいと思います。

(新田会長)

はい。それは別で走っております地域公共交通計画の検討会でもまさにそういう方向を目指しているところです。

一方で、立地については、県としてスポーツをどう考えていくかという観点からも考える必要があろうかと思えます。

いずれにしても、ご意見はよくわかりますので、様々な面を総合的に勘案して、見直し検討会であのような結論が出たことを我々としては受け止めていきたいと思えます。

(夏野委員)

終わった後ですが新型車両などいろいろあるという資料を作ったので、見ていただいてよろしいですか。

<追加配布資料「様々な新型鉄道車両」について>

電気式気動車、蓄電池駆動電車、ハイブリッド、それから最近出た水素車両というものもあります。値段はピンからキリ。利便性を上げるために何分間隔で運行するかに

よって、必要な両数も変わってくるという話もありますし、早めに具体的に議論するために、車両だけでもこれだけあるというのをまた見ておいていただければと思います。

(新田会長)

夏野市長ありがとうございました。

(田中委員)

先日、成田空港でインバウンドがかなり増えているという話を聞きまして、どういうチケットを買ってどうやって回るのか考えると、JRのジャパンレールパスは外国人も、個人も団体もほぼ全員が使っていて、そのあとはバスのそういったパスにつながっていると。一方で富山県では、民間のバス会社で連携をしながら「〇日間乗り放題」のようなルートが組めていないのではないかと考えています。新高岡や富山から世界遺産バスが出ていますが、高山側とどう連携するか、今後敦賀まで行くとどういう連携をするのか。Maasが使えるようになると動きがかなり変わってくるという専門家の話もあります。白川村まで来た後が行きにくいというのが問題視されていて、そういったことを整理したいと考えています。

(新田会長)

二次交通三次交通の充実というのは、大きな課題だと考えております。ご意見を踏まえて今後観光とも連携してやっていきたいと思えます。

その他いかがでしょうか。特にならなければ事務局にお返しします。

4 閉会

(事務局)

それでは以上を持ちまして、第1回の検討会を終了させていただきます。